

持続可能(サステイナブル)なモノづくり

— エコテックスの役割と今後 —

(一財)ニッセンケン品質評価センター 理事長
駒田 展大

1. エコテックスの理念

繊維製品の安全性を証明する国際規格を定めるエコテックス国際共同体が1992年3月にヨーロッパで誕生して、昨年25周年を迎えました。本部はスイスのチューリッヒにあり、世界16か国に認証機関を置き、約70の国と地域に受付窓口を置く世界的な繊維製品のエコロジー国際共同体です。私どもニッセンケン品質評価センターは2000年にエコテックス国際共同体に加盟し日本で唯一の認証機関として認証事業を行ってまいりました。現在、100以上の国で延べ16万件以上のエコテックス®スタンダード100の認証書を発行しており、その数は毎年増え続けています。

エコテックスは製品の製造から廃棄までの安全性を考慮した、使う人にも作る人にも環境にも優しい持続可能(サステイナブル)なモノづくりを目指すものです。エコテックスの最終目標は全世界の消費者のために世界の市場から有害化学物質を含んだ衣料品や関連商品を駆逐すること、無くすことなのです。それは大変困難なことですが、それまでの過程で安全が証明されたものにはエコテックスラベルを付けて消費者から見分けがつくようにしていこうというのがエコテックス認証システムの根本的な考えです。

世界の市場から有害化学物質を含んだ衣料品や関連商品が無くなればエコテックス認証システムもエコテックスラベルも必要ありません。

2. エコテックスの有害化学物質規制に対する考え方

繊維製品に含まれる有害化学物質を世界に先駆けて規制したのは日本です。1973年、生後24か月未満の乳幼児が着用する衣料品のホルマリンを法律で規制しましたが、単発的で、それ以外の物質への広がりはありませんでした。

ヨーロッパでは試験研究機関が色々なものを包括的に科学的に調査しホルマリン以外の化学物質にも規制基準を設けていきました。その流れの中でエコテックス®スタンダードが生まれました。更にエコテックスは有害化学物質の範囲を広げていくと同時にその規制値を用途別に検討し、現在のエコテックス®スタンダード100を構築しました。

設立当初からのエコテックスの化学物質規制に対する基本的な考えは「安全であるという証拠が無いものは安全とは言えない」ということです。予防をすることを優先に考え、疑わしいものは規制物質に入れ確認をしていきます。ですからエコテックスでは国際共同体に加盟する試験研究機関の技術者が年2回一堂に会し、技術者会議を行います。各国の色々な情報を持ち寄り、規制物質の追加や見直しを行います。規制物質や分析方法も一度決めれば変えないのではなく科学や技術の進歩に応じて、より早く最先端のモノを取り入れていきます。

3. 「世界の持続可能なモノづくり」におけるエコテックスの役割

エコテックス国際共同体が設立された頃はヨーロッパでもサステナビリティという言葉が一般的には浸透していませんでした。現在では世界の大きな潮流としてサステナビリティを基準としたモノづくりが意識されるようになってきております。

現在、人類はこれまで経験したことがない自然環境の変化に直面しております。温暖化による地球環境の変化、世界の多くの国で環境規制や化学物質規制が進むのと同時に環境NGOによって新興国での大企業の搾取や有害化学物質による環境や人体への被害が指摘され、その情報が瞬時に世界に広がります。それに伴い世界のグローバル企業はそれに対応せざるを得ない状況になってきており、そのための対応策や組織作りを進めています。それに連動するように世界各国の繊維やアパレル業界は環境や人への負荷を最小限に抑える経営方針へと大きく舵を切っております。

インテリジェントなデザイン、生産工程、化学物質の選択を仕組みとして取り入れなければ企業としての成長が望めない時代を迎えております。グローバル企業やヨーロッパ諸国の企業、消費者が求めるものは「そのものが環境に配慮され且つ人に対して安全であるか」というのが大きな購買要素になります。

では、その素材や製品の安全性を何で裏付けをするのか？答えはテストデータか認証になるのですが、それが受け取る方、購入する方が納得するデータや認証でないと受け取ってもらえない。世界の企業の中にはエコテックス認証取得を納入基準としている企業がたくさんあります。それはエコテックスで認証されたものは、それを満足した安全性が担保されたものと世界中で認められているからです。

しかしながら、日本では認証を取得している企業はまだ少ない。ただ、この2～3年、日本でもサステナビリティという言葉や考え方が企業から消費者まで浸透し始めていると感じています。日本の企業も「世界の持続可能なモノづくり」の潮流に乗り、たくさんの企業がより人体や環境に配慮した持続可能なモノづくりを意識するようになってきています。

その証明としてエコテックス認証の取得を考えるようになってきています。

4. 現在のエコテックスの活動

エコテックスは地球環境と労働環境のサステナビリティの両立と人体への安全を守ることが使命です。サステナビリティに対する消費者の関心が高まるにつれ、エコテックスでは認証対象を広げていきました。

現在では下記5つの認証システムを構築しエコテックス®ファミリーと呼び、認証事業を行っています。

- ①「スタンダード100」繊維製品及びそれに関連するものの認証
- ②「レザースタンダード」革製品(天然皮革)及びそれに関連するものの認証
- ③「エコパスポート」繊維用化学薬剤(染料、助剤、加工薬剤等)の認証
- ④「ステップ」施設、工場の認証(持続可能な生産現場の構築)
- ⑤「メイドイングリーン」サプライチェーンの各段階においてスタンダード100、ステップの要求事項を満たした製品に使用できるエコテックス国際共同体が保障する最上級のラベリングシステム。このラベルが付いた商品のQRコードを読み取ると商品の原料がどこで作られ、どこで染色され、どこで縫製されたかが確認できる。

エコテックス国際共同体では、これからも絶え間なく、繊維業界の安全水準の向上に対する課題をクリアにしサステイナビリティを基準とした生産が当たり前になるように活動を続けていきたいと考えております。

5. 未来への責任とエコテックス

繊維やその関連産業は製造から廃棄までの工程が長く水や化学薬剤を大量に使うので、石油産業に次ぐ汚染産業と言われ、環境や人体への影響が大きい産業といわれています。日本を含む世界の衣料品消費国は大量の衣料品を開発途上国で生産しています。そのことが途上国での雇用や経済発展に大きく寄与していることは事実ですが、有害化学物質による環境汚染や取り返しのつかない人体への被害が広がっていることも事実です。そのような現場でもエコテックスが規制する化学物質が使用されなければ環境汚染を防ぐことができます。作業にも安全だし、そこで作られたものを使用する消費者にも安全なのです。

環境や人を犠牲にしたモノづくりは長続きしません。エコテックス認証の取得やその考え方でモノづくりを進めて行けば安全性への確信が持てます。それが消費者の信頼を得ることに繋がっていきます。そういう意味ではエコテックスは持続可能なモノづくりのグローバルパスポートと言えます。当然、企業である以上、利益を上げなければなりません。同時に私たちは未来に責任があります。人の未来に影響を及ぼす有害化学物質を使わない、安心・安全をベースにした健全なシステムでモノをつくる必要があります。

企業は消費者に対してだけでなく、自社のブランディングにも安心・安全による信頼性の確保を取り入れることが、これからの時代には欠かせないのではないのでしょうか。